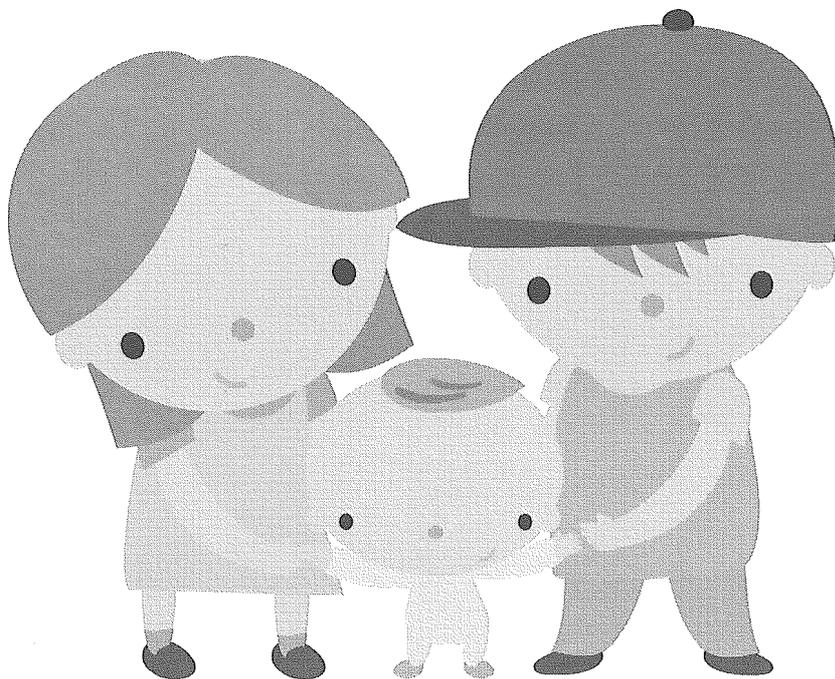


事業Ⅱ

助産所と病院の産科オープンシステム

モデル事業 ご利用の手引き

～ もっと安全で快適に出産するために ～



 **日本赤十字社医療センター**
JAPANESE RED CROSS MEDICAL CENTER

産科部長 杉本充弘

助産所と日赤医療センターの産科オープンシステムとは

このたび、当院では、よりよい出産のあり方を模索していくため、助産所と日本赤十字社医療センター（渋谷区広尾。以下「日赤医療センター」）との連携による産科オープンシステム事業（以下「事業」）を実施することになりました。

少子化、核家族化という時代背景の中で、妊娠・出産・育児に不安をかかえる妊婦さんは少なくありません。しかし、現在の産科医療はその不安に十分に応えているとはいえません。

本事業は、日赤医療センター 産科部長 杉本充弘を主任研究者とする平成 16～17 年度厚生労働科学研究費補助金による研究事業*に基づき行われており、助産所と病院の連携を深め、快適で安全な出産を保障し、妊婦の皆様やご家族のニーズに対応できる産科施設を作っていくことを目的としています。

つきましては、趣旨をご理解のうえ、本事業をご利用賜りますようお願い申し上げます。

*厚生労働科学研究費補助金とは

厚生労働省が、医療や福祉の発展等のために研究者に提供する補助金です。研究結果は報告書として取りまとめて公開され、今後の医療や福祉のために役立てられます。本事業名は、平成 16～17 年度厚生労働科学研究（医療技術評価総合研究事業）「医療安全を考えた産科施設の安全と質に関する研究」です。

1. どのような事業なのですか？

地域の助産所と日赤医療センターが協力を行いながら、妊婦さんの安全で快適な出産をサポートします。

これまでの出産は多くの場合、安全性に比重を置いた病院と家庭的なケアを重視した助産所とがそれぞれ独立して対応してきました。そのため、安全で快適な出産を求める多くの妊婦さんは二者択一を迫られてきました。

本モデル事業では地域助産所と病院が連携した新スタイルの産科施設を作り、妊婦さんの安全で快適な出産をサポートすることを目指しています。

2. 具体的にはどのように進めるのですか？

在宅妊婦健診（通院定期健診以外の、月1回程度の健診と生活の援助）は、日赤医療センターの助産師（2-3人のチーム）または、日赤医療センターが協力を依頼した地域の助産師のケアをご自宅で受けていただきます。

ただし、通院定期健診（20週、30週、36-37週）は、日赤医療センターの外来で行います。（状況によっては、このほかにも日赤医療センターの外来で受診していただく場合があります。）

また、出産は日赤医療センターで行い、出来る限りこれまで担当してきた助産師が出産介助を行います。まれに別の助産師が出産介助を行うこともありますが、その際には引き継ぎを十分に行い、訪問で実施してきたケアの連続性を尊重します。

出産後は、ご希望に応じて1日から3日間程度での退院となり、その後はご自宅に帰られるか、地域の助産所へ転院して、担当の助産師のケアを受けていただきます。

詳しくは5ページ以降をご覧ください。

*妊婦さんにメリットになること

- 1 担当助産師が継続的にかかわることで、妊娠・出産・育児に不安をもつ妊婦さんをサポートします。
- 2 出産は、緊急時にも迅速に対応できる人的・物的準備の整った日赤医療センターで、家庭的な雰囲気を尊重した中で行われます。
- 3 特に、二人目、三人目の妊娠で、上の子どもを育てながら、妊婦健診のために日赤医療センターまで通院するのが困難な方にとって、何回かの妊婦健診をご自宅あるいは地域助産所で受けることができます。

3. 具体的にはどのようにモデル事業を進めるのですか？

日赤医療センターを受診し、妊娠の経過に大きな問題がないと考えられる（ローリスク）方のうち、お住まい等を考慮してこの資料をお渡ししています。

本事業を利用してもよいという方には、さらに詳しく話し合う場を持った後に、同意書にサインをしていただき、日赤医療センターに登録します。

その後、担当の助産師を決め、在宅妊婦健診に伺います。

4. 妊娠の途中や出産の際に、予期しない事態が発生した場合には、どうなりますか？

日赤医療センターで、必要と思われる医療処置を行うなど、責任をもって対応します。ただし、本事業の対象者の方はローリスクの方としていますので、本事業の対象ではなくなる場合もあります。

5. そのほかに何か協力することはありますか？

本事業はよりよい出産のあり方を目指しており、皆さんからのご意見をもとに出産のシステムやケアについての課題をみつけ、フィードバックしていく必要があります。そのため、妊娠中にアンケート調査を実施したり、お話をうかがうことがあります。また、出産後3か月程度の時期に、経験された内容について、改善した方がよい点、よかった点などについて個別にお話をうかがったり、本事業を利用された方たちのグループでお話をうかがうことがあります。

6. 自分の名前が公表されたり、プライバシーが侵されることはありませんか？

本事業では、個人のプライバシーを尊重し、十分に配慮を行います。

お話をうかがう際に録音等の記録をとらせて頂く場合がございますが、氏名等、個人が特定される情報が、外部に公表されたり、もれたりすることはございません。また、これらの情報につきましては、事業以外の目的には使用いたしません。

7. 途中で利用したくなくなった場合は、やめることができますか？

途中で何らかの事情により、本事業の利用を辞退したくなった場合には、やめることもできます。訪問を担当している助産師に申し出てください。その後のケア等については、助産所あるいは日赤医療センターで、一般の妊婦さんと同様に受けることができます。

また、本事業の途中で、疑問や不安が生じた場合には、遠慮なく、助産師に申し出てください。一緒に解決の方法を考えていきます。

8. 費用はいくらになるのですか？

健診の回数や入院日数によって異なります。また産後のケアは、実施する内容によっても異なります。この資料の後ろに目安となる金額を示していますので、助産師と相談しながら計算してみてください。おおよその目安がわかります。

ここからは、本事業と費用について、詳しく説明します。

1. 本事業をご利用いただく方は、次のように進めます。

月数 週数	場所	初期	3 10W	4 11-19W	5	6 20W	7 21-29W	8 30W	9 31-35W	10 36-37W	出産	入院	産後
		妊婦さんの自宅  日赤助産師による 訪問健診・ケア または 出張専門助産師よ る訪問健診・ケア	日赤助産師による 訪問健診・ケア または 出張専門助産師よ る訪問健診・ケア										
日赤医療センター  ご協力の依頼 ・説明と同意	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センター で健診 医師と助産師	日赤医療センターにて、原則 1日 その後、在 宅ケア(地域 の助産院に 引継ぎ)	満足度等を 調査 産後約3か 月で完了	

①本事業の説明

日赤医療センターを受診した方のうち、対象者に該当すると判断された方について、本事業についての説明をいたします。

②在宅妊婦健診

あなたのご自宅で、日赤医療センター助産師、あるいは出張専門の開業助産師による在宅妊婦検診を行います。日赤医療センターでは、あなたの担当となる助産師のチームを編成して対応いたします。

③通院定期健診

20週、30週、36-37週の通院定期健診は、日赤医療センターで行います。

その際、日赤医療センターの助産師が健診に立ち会います。

- 日赤医療センターでの通院定期健診については、担当の助産師と相談の上、予約をとり、受診して下さい。待ち時間を短縮するため、なるべく早い時間帯に予約を入れることをおすすめいたします。

④出産

出産は日赤医療センターで行います。

その際、日赤医療センターの担当の助産師が出産介助を行います。詳しくは、マタニティノートを参照していただきますが、緊急時に対応できる装備を整えた上での家庭的な雰囲気での出産となります。また、胎児のモニターは実施いたしません。

⑤産後

産後の経過に特に問題がない場合、日赤医療センターにご希望に応じて1日～3日（ただし、妊婦さんの状態でご希望にそえない場合もあります）入院していただきます。その後、以下のいずれかの方法でケアを受けていただきます。

- 1) 日赤医療センターの助産師による在宅ケア
- 2) 地域の助産師による在宅ケア
- 3) 地域の助産所への入院

また、産後、助産所及び日赤医療センターにおけるケアや健診、出産について、満足度等のご意見をうかがいます。うかがったご意見は、本事業の成果に反映させていただきます。

○受診の際の持ち物

日赤医療センター、あるいは助産所を訪れる際は、母子手帳、及びマタニティノートをお持ち下さい。マタニティノートは健診した結果が記入されております。記録は、複写式になっており、自分のお手元と日赤医療センター、または助産所が保管しますので、緊急の場合にスムーズに対応できます。



2. 費用

本事業をご利用頂く場合、出産にかかる費用（ただし初診費用を除く）はおおよそ下記のとおりになります。

（例）妊娠 15 週で当センターで初診を受け、本事業を利用した場合

在宅妊婦健診（ご自宅）	5 回
通院定期健診（日赤）	5 回（超音波検査 4 回、ドプラ 1 回、NST 2 回）
入院（日赤）	1 日
早期新生児健診 （日赤、ご自宅）	2 回（生後 1 日目、5 日目（ガスリー検査））
在宅ケア（ご自宅）	3 回（乳房マッサージあり、沐浴サポートあり）
1 か月健診（日赤）	1 回（赤ちゃんの健診、生後 1 か月）
1 か月半健診（日赤）	1 回（お母さんの健診、産後 1 か月半）

在宅妊婦健診 (ご自宅)	基本料	5,300円	×(5)回	26,500円
	ドプラ (助産師出張) 交通費(実費)	400円	×(5)回	2,000円 +交通費
通院定期健診 (日赤)	基本料	3,500円	×(5)回	17,500円
	超音波検査	3,000円	×(4)回	12,000円
	またはドプラ	400円	×(1)回	400円
	NST	3,000円	×(2)回	6,000円
分娩料等		310,760円	×(1)回	310,760円
入院料	(普通室の場合、食事代含む) 1日あたり	21,540円	×(1)日	21,540円
新生児介補料	1日あたり	4,110円	×(1)日	4,110円
早期新生児 健診(日赤、 ご自宅)	(生後1日目)		×(1)回	1,000円
	(生後5日目) ガスリー検査 (助産師出張) 交通費(実費)		×(1)回	5,000円 +交通費
在宅ケア (ご自宅)	母乳育児サポート・沐浴サポート 12,000円 乳房マッサージ 3,000円 (沐浴がない場合 -2,000円) (助産師出張) 交通費(実費)		×(3)回	45,000円 +交通費
1か月健診 (日赤)	(赤ちゃんの健診)	5,500円	×(1)回	5,500円
1か月半健診 (日赤)	(お母さんの健診) (検査等を除く)	3,500円	×(1)回	3,500円
合計				460,810円+交通費(実費)

あなたの場合、費用がどれくらいになるか、担当の助産師と相談しながら、計算してみてください。

在宅妊婦健診 (ご自宅)	基本料	5,300円	× () 回	円
	ドプラ (助産師出張) 交通費 (実費)	400円	× () 回	円 +交通費
通院定期健診 (日赤)	基本料	3,500円	× () 回	円
	超音波検査 または ドプラ	3,000円 400円		
	NST	3,000円		
分娩料等		310,760円	× (1) 回	310,760円
	ハイリスク分娩*			(30,000円)
	新部屋使用料金*			(25,000円)
入院料**	(普通室*の場合、食事代含む)		1日	21,540円
			2日	42,480円
			3日	63,420円
新生児介補料	1日あたり	4,110円	× () 日	円
早期新生児 健診 (日赤、 ご自宅)	(生後1日目)		× (1) 回	1,000円
	(生後5日目) ガスリー検査		× (1) 回	5,000円
	(希望者のみ) 聴力検査***		× (1) 回	6,700円
在宅ケア (ご自宅 または 助産所)	母乳育児サポート・沐浴サポート	12,000円	× () 回	円 +交通費
	乳房マッサージ (沐浴がない場合 -2,000円) (助産師出張) 交通費 (実費)	3,000円		
入院料 (助産所)	1日あたり (おおよそ)	18,000円	× () 日	円
	(入院料金、食事代含む)			
1か月健診 (日赤)	(赤ちゃんの健診)	5,500円	× (1) 回	5,500円
1か月半健診 (日赤)	(お母さんの健診) (検査等を除く)	3,500円	× (1) 回	3,500円
合計				円+交通費 (実費)

* 分娩の際、ハイリスク分娩の場合、新しい部屋を使用した場合は費用が加算されます。
また、日赤医療センターに入院の際、個室を使用した場合は、費用が加算されます。
詳しくは、ご退院の際、病棟の師長にご確認ください。

** 入院料につきましては、日数により費用が異なります。

*** 聴力検査は、平日のみの実施となっております。

<本事業についての問い合わせ先>

日本赤十字社医療センター

担当：看護部

〒150-8935 東京都渋谷区広尾4丁目1番22号

電話（代表）：03-3400-1311

Fax：03-3409-1604

E-mail：nurse@med.jrc.or.jp

（<妊婦訪問事業・産科>の件名で、メールを送信して下さいますようお願い申し上げます。なお、メール本文には必ずお名前とご連絡先を記載して下さい。）



最後に、本事業をご利用頂くかどうかについて、お聞かせ下さい。

本事業に利用することについて、どう思いますか。

- | |
|-----------------------|
| 1. ぜひ利用したい |
| 2. もう少し詳しく話を聞いて、検討したい |
| 3. あまり興味がない |

上記、「1. ぜひ利用したい」または「2. もう少し詳しく話を聞いて、検討したい」と回答された方には、後日連絡を差し上げる場合がありますので、以下にお名前とご連絡先、連絡方法をご記入ください。なお、この情報は他の目的には用いることはなく、皆さまのプライバシーには十分に配慮を行いますので、安心してご記入ください。

お名前	
ご住所	
電話	() -
F A X	() -
電子メール	
その他 連絡先	電話 () - 勤務先・携帯・その他 ()
連絡方法	1. 電話 2. F A X 3. 電子メール

さらに詳しく知りたい内容、不安なこと等がありましたら、自由にお書きください。

--

ご協力ありがとうございました。



資料 9. モデルⅡ事業利用同意書

助産所と病院の産科オープンシステム

モデル事業利用同意書

1. 事業の目的

本事業は、助産所と病院の連携を深め、快適で安全な出産を保障し、妊婦の皆様やご家族のニーズに対応できる産科施設を作っていくことを目的としています。

2. 事業の内容

- 妊娠中は、() 病院の担当助産師による在宅訪問健診と、() 病院外来での通院定期健診を受けていただきます。
- 出産は、() 病院で行います。可能な限り、妊婦健診を担当してきた助産師が、出産介助を行います。胎児のモニターは実施します。
- 出産後、経過に特に問題がない場合、原則として日赤に1日から3日() 病院に入院して頂きます。(状態やご希望次第では変更もありえます。) 退院後は、病院の担当助産師がご自宅を訪問して、あるいは地域の助産所の助産師がご自宅を訪問して(助産所への入院も可)、ケアを提供します。
- 妊娠中及び出産約3か月後、() 病院におけるケアや訪問健診、出産について、満足度等のご意見をうかがいます。うかがったご意見は、本事業の成果に反映させていただきます。
- 途中で何らかの事業により、本事業の利用を辞退したくなった場合には、協議のうえ、やめることができます。その後も、() 病院または() 助産所で引き続き、ケアを受けることができます。

3. 緊急時の対応・情報の取り扱い等

- (1)妊娠・出産の途中経過に予期しない事態が発生した場合には、必要となる医療処置を実施する等、() 病院にて責任をもって対応します。
- (2)本事業につきまして、満足度等のご意見をうかがい、本事業の参考にさせていただきます。その際、録音等の記録をとらせて頂く場合がございますが、氏名等、個人が特定される情報が、外部に公表されたり、もれたりすることはございません。
- (3)本事業から得られる情報につきましては、本事業以外の目的には使用いたしません。
- (4)その他、プライバシーを尊重し、十分に配慮を行います。

() 病院 産婦人科部長 ××××殿

上記の内容について、事業の利用に同意します。

年 月 日

ご住所 _____

お名前 _____

		3月1週目												産後		妊娠	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	1	2
1	28	35	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	2	36	●	★	●	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	9	37	★	●	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	16	38	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	23	39	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	30	40	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
2	6	0	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	13	1	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	20	2	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	27	3	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
3	6	4	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	13	5	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	20	6	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	27	7	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
4	3	8	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	10	9	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	17	10	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
	24	11	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
5	1	12	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★

妊婦健康診査訪問マニュアル

1. 訪問前の準備

1) 対象者の基礎データ確認

○氏名 生年月日 住所 職業の有無・内容 職場環境 家族構成 家族歴 既往歴
妊娠・分娩歴 生活環境・状況 家庭環境
現在の週数 前回の健診からの要観察項目・引継ぎ事項

*情報が不足している場合は訪問時に聴取する。

2) 物品

○手洗い石鹸○タオル○エプロン○筆記用具○研究用マタニティノート・妊婦訪問報告書
○手袋
○病院名のゴム印○スタンプ台○指導用パンフレット○領収書
○血圧計・ステート○メジャー○ドップラー○ドップラー用ゼリー○検尿用カップ○テストテープ

2. 健康診査の実際

妊婦の全体像を捉えられれば、手順はこの限りではない。

1) 問診

- ① 前回から今回の健診までの日常生活について（休息／睡眠，活動／運動・食生活などの状況）
- ② 自覚的な心身の変化について（心身の変化 胎児の変化）
- ③ 早産徴候が無い（子宮収縮の有無・どんな時感じるか・疼痛の有無・出血の有無／性状・分泌物の有無／性状）
- ④ 中毒症症状が無い（疲れ易い・浮腫・尿の出が悪い）
- ⑤ マイナートラブル（悪阻・便秘・妊娠搔痒感・腰痛・痔・こむら返りなど）の有無・程度・状況・対処法
- ⑥ 妊娠・出産への思い・取り組み
- ⑦ 現在の心理状態
- ⑧ バースプラン

2) 触診

① 腹部の様子

腹壁の厚さ及び緊張度 子宮の形・大きさ・硬度 羊水の量 胎位・胎向・胎勢
胎児の大きさ・動きとその特徴 胎児先進部と骨盤入口の関係

② 浮腫の有無・部位・程度

③ 身体の冷えの有無・部位・程度

3) 聴診

① ドップラーによる児心音の観察（聴取部位・数・強弱・リズム不正の有無・胎動との関係）

4) 視診

① 言動

② 体格 栄養状態 骨盤の形状

③ 腹部 妊娠線の有無・色素沈着の有無・腹部の形状

④ 顔 表情・血色・眼瞼結膜の色

⑤ 下肢 浮腫・静脈瘤の有無と程度

⑥ 外陰 静脈瘤の有無・程度 分泌物の量・性状・掻痒感の有無

⑦ 乳房 大きさ・形 乳首の形・突出の程度 初乳分泌の有無・性状 乳腺の発育 乳房のしこりの有無（16週前後、24週前後、36週前後）

⑧ 検尿 必ず中間尿を採取。妊婦とともに尿の性状を観察する

5) 計測診

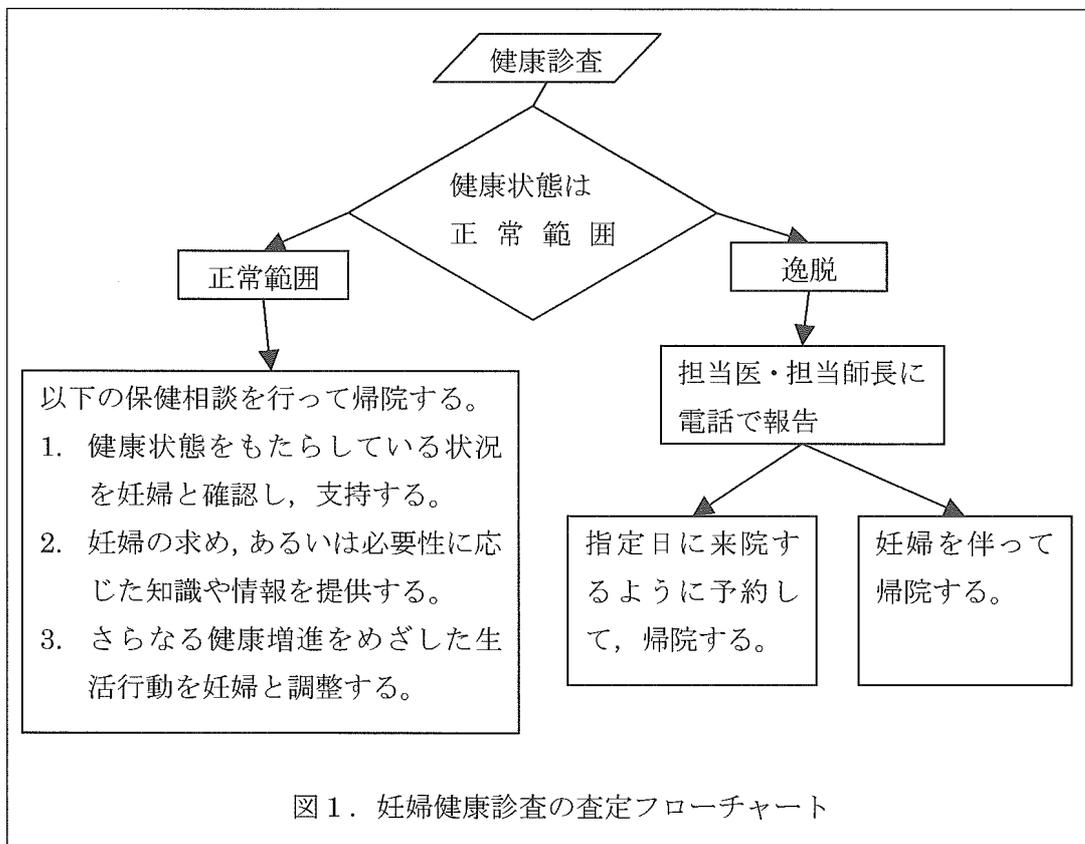
① 体重

② 血圧測定

③ 腹部計測・子宮底（週数に見合っているか）

3. 妊婦訪問時の連絡報告, 記録

健康状態の査定フローチャート



1) 健康逸脱を認めた場合

- ・ 担当師長（受け持ち助産師が所属する部署の師長）または状況により外来担当医に PHS へ取り次いで指示を受ける。
- ・ 手術などで担当医に連絡が取れない場合は、担当師長に報告して調整を依頼する。
- ・ その場合、担当師長は分娩室当番医あるいは産科部長に連絡して指示を受け、往診している助産師まで連絡する。

2) 訪問前と帰院後の記録と報告

- ・ 妊婦訪問は助産師が最低でも 2 名がチームとして訪問する事を原則とする。
病欠などで急遽 1 名で訪問を行う場合は必ずその旨を担当師長に連絡する。
- ・ 対象妊婦が事業の説明を受け、事業を利用したい意思を表明したら、同意書に記入してもらおう。同意書の原本は個人ファイルに入れておき、1 部コピーして妊婦に渡す。